

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 12	公益目的事業 19
主査名	森本章倫 早稲田大学理工学術院社会環境工学科教授	
研究テーマ	コンパクトシティと交通政策の連携に関する研究**	
研究の目的： <p>自動車依存社会で助長された低密拡散型都市を、集約型都市構造に転換するためには、次世代交通システムがその役割を果たす可能性が高い。そこで、本研究ではこれまでのコンパクトシティと交通の関係を整理し、今後の都市政策と交通政策のあり方について検討することを目的とする。なお、研究の視点としてはコンパクト政策、スマート政策の双方の視点から集約・非集約エリアのあり方について議論した。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>全体で4回の研究会を実施し、コンパクトシティにおける交通政策やICTの活用による新しい街づくりについて多面的に検討した。</p> <p>(1) ビックデータを用いたコンパクト性の評価 コンパクトシティの政策評価として、携帯電話の基地局データを用いた新しい評価方法について、その有効性や課題について議論を行った。</p> <p>(2) 3次元CGを用いたコンパクトシティの可視化 3次元CGを用いて具体的な都市の集約エリアと非集約エリアを可視化し、その再現方法や対象等について議論を行った。またアンケート結果についての報告があった。</p> <p>(3) スマートシティに関する議論 国交省都市局から9月に「スマートシティの実現に向けて」の中間とりまとめが出された。これをもとにコンパクトシティとスマートシティの関係や、新しい技術を用いた都市の評価について討議を行った。</p> <p>(4) ロジスティクスからみたコンパクトとスマートについて デジタル化の進展と都市の行く末に対して、物流のパラダイムシフトや物流の需給の調整対策について議論した。</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>ビックデータをもちいたコンパクトシティの新しい評価方法を検討した結果、滞留人口など1日の人の動きを詳細に把握することで、都市空間を動的に評価できることを明らかにした。また、コンパクトシティの可視化ツールの有効性を確認し、スマートシティ形成に向けた課題を抽出した。</p>		
今後の課題： <p>近年、ICTの活用によるスマートシティが話題となっており、スマート化とコンパクト化が必ずしも同じ誘導効果を生まない可能性がある。今後、コンパクトシティとスマートシティの政策融合が課題である。</p>		